

化 石

尚綱高校 田代正之

熊本県は、いろいろな時代の地層が分布し、比較的化石産地に恵まれている。その中には学術的に大変貴重な産地も多い。保存が強く望まれる貴重なものなのにその保存について問題がある下記の3ヶ所について、考えてみたい。

1 貨幣石

貨幣石は新生代古第三紀に汎世界的に栄えた高等有孔虫の一種である。本邦では、小笠原諸島、天草地方にその産地がみられる。天草地方の貨幣石は、1923年に長尾功博士により河浦町宮野河内と獅子島のタグイ崎から発見され、それまで白亜系とされていた天草の古第三系が確認されるに至る引金役を演

じた。現在、宮野河内越路の道路端に、天然記念物指定の標識が建てられ、その地点より10m程西方の民家裏井戸端にその貨幣石を含んだ石灰石質砂岩が、黒色頁岩中にレンズ状にはさまれている。周囲には雑草が生いしげり、初めての人には、目的物の確認が困難であろう。長尾博士による発見地とこの露頭が一致するかは判らないが、1925年に矢部・半沢両先生により記載された化石産地の写真は、本郷南方の道路東側(本郷の生田薬局西側)が写されていて、現在地とは異なる。貨幣石を保存したいのなら、まだなくないうちに牛深近傍の牛島のものなどを指定するほうが効果的であつたろう。また、記念



写真① 貨幣石産地の標柱（天草郡河浦町宮野河内越路）。



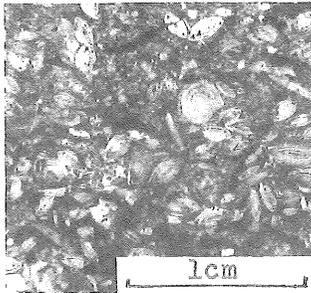
写真② 貨幣石を産する石灰質砂岩レンズ。頁岩中に挟まれている。



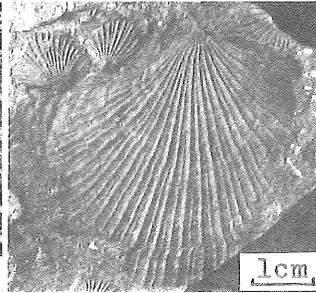
写真③ 八代郡坂本村深水の10年前のシリリア紀リングユラ産地。



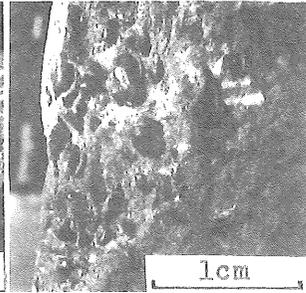
写真④ 現在の状態（③は④と約180°異なる方向でみている）。



写真⑤
牛深市下須島黒岬産
の含貨幣石石灰岩
（みがいたもの）。



写真⑥
深山谷産の *monotis*
ochotica densistria
ta (TELLER)



写真⑦
八代郡坂本村深水产
の *Lingula kumensis*
HAMADA

物の標識中には古第三紀を古第三世紀と書いたり、その他、おかしな表現があるので、訂正する必要がある。

2 モノチス

モノチスは中学・高校の教科書にもよく出てくる三疊紀ノーリックの重要な示準化石である。九州では殆ど熊本県の秩父帯のみに産し、八代郡坂本村の三坂・荒瀬・藤本、東陽村や泉村の数地点がその産地である。特に泉村の深山谷ではモノチス化石11種が40mの厚さの地層から、11化石帯をなして分布し、宮城県の四貝と共にモノチスによる地層の分帯と、進化を論ずる上で重要な産地である。しかるにこの産地は細い山道で、この道は雨がふると小川になり、水で洗い出されたところに化石を含む地層が僅かに露出している。両側は杉林で、崖くずれがおこれば忽ち埋もれてしまう。しかし他の産地でも例があるように、心ないマニアが、場所を明示すると却って産地を荒してしまうことが多い。

3 リンギュラ

八代郡坂本村深水の谷には八代片麻岩や花崗岩類と断層で境されて、日本最古の化石であるシルリヤ紀のくさりさんごやリンギュラを産する。くさりさんごは日本の他の場所でもつと沢山、又もつと保存のよいものを出す。リンギュラは恐らく深水のものが最もすぐれていて多い。

このリンギュラは正式には *Lingula kumensis* HAMADA で有明海等に住みどりしやみせんがいも属が同じ *Lingula* なので生きた化石といわれるのも、*Lingula* 属の生存期間が長いからである（他の国ではカンブリヤ紀からも *Lingula* は出ている）。

図に示すようにこの産地には幅4～5mの凝灰質頁岩がでており両側は断層で花崗岩だつたように記憶している。しかるに近くにくづれがあつて、その時産地も一緒に砂防のコンクリート壁をつくりうめてしまった。現在では工事の時掘りかえされた転石から僅かに化石が採取出来るのみである。